三井金属

2020年3月期第3四半期決算電話会議議事録

参考資料:2020年3月期第3四半期決算説明資料
(補足) PKG : パッケージ基板
HDI : マザーボード(High Density Interconnect)
PPC : パン・パシフィック・カッパー。 JX金属(株)と当社との銅事業の合弁会社

【全体】

Q. 前回見込から今回見込について、セグメント別の変化点を整理して教えてください。中でも機能材料セグメントの対前回見込増益(+41億円)について教えてください。

A. (決算説明資料P2より)機能材料セグメント+41億円の一番大きな増益要因は触媒が半分以上であり、主な要因は貴金属価格の上昇によるもの。触媒原料は自給が一部あり、貴金属価格の上昇がQ3にかけて大きかったため一時的に利益が膨らんだ。その他の増益要因は銅箔事業によるもの。
金属セグメント+7億円の要因はカセロネス銅鉱山が+12億円改善、PPC製錬が▲5億円減益。
関連セグメント▲15億円のうち、子会社の三井金属エンジニアリングが受注予定の工事案件を取れなかった要因が▲9億円。あとは金属価格低下による在庫要因が▲33億円発生した。

【機能材料セグメント】

Q. 機能材セグメントでQ2からQ3にかけて販売量が増えていないのに利益が+25億円伸びている背景を主要製品ごとにご説明ください。

A. 一点は在庫要因で、Q2からQ3にかけてインジウム価格の下落幅が小さくなったことにより+7億円。もう一点は+25億のうち半分以上が触媒であり、貴金属価格上昇の影響がQ3で出てきた。

Q. 機能材料セグメントのQ3からQ4にかけての主な減益要因を教えてください。

A. Q4では貴金属価格をQ3と同水準でみているため、Q4にはQ3で発生した貴金属価格上昇による好転分を織り込んでいない。他にはPKG向けのMicroThin™減販を織り込んでいる。

Q. HDI向けMicroThin™で新規顧客拡大のような動きはあったか?

A. 現時点では大きな動きはない。

Q. HDI向けMicroThin™について、北米スマホメーカーから廉価版が発売されるが、その影響はどう見ているのか教えてください。

A. 廉価版にもHDI向けMicroThin™が採用されており、売れ行き次第ではMicroThin™の数量が上振れする可能性はある。

Q. HDI向けMicroThin™について、2020年モデル向けの売上を考える際のトレンド、例えば顧客の歩留、採用層数などわかる範囲で教えてください。

A. メイン顧客である北米系スマホメーカーによると、現時点でも2020年モデルでは基板面積が大きくなる方向で検討しており、そうであればHDI向けMicroThin™の販売量は今年度より増える方向になると思われる。

Q. PKG向けMicroThin™が18年度から19年にかけて伸びている背景、非スマホ向けも伸びているかどうかも含めて教えてください。(18年から19年の伸び率:+19%)

A. 元々PKG向けMicroThin™はスマホ向け、非スマホ向けともに年率で伸びていくと想定していたが、下18からの在庫調整および19年度Q2の在庫需要による販売増などもあり、18年度から19年度にかけて実需の伸び以上に販売増になっている。

Q. PKG向けMicroThin™について、在庫需要があったQ2からQ3で数量が変わらない理由およびQ4で下がる理由を教えてください。
A. Q2からQ3にかけて数量が変わらない理由はQ3でメモリ向けの作り込みがあったため。Q3からQ4にかけて数量減少の理由はQ4の旧正月およびメモリ作り込みの反動減があると見ている。

Q. PKG向けMicroThin™が18年度から19年度にかけて割と好調だが、スマホ向けと非スマホ向けのトレンドに変化があるかどうか教えてください。
A. トレンドとしては、スマホ向けがスマホ部品点数増加による使用量増加、非スマホ向けは5Gの流れもありサーバーのメモリー向け等への数量増加であり、トレンド自体に変化はない。

Q. 今年度のPKG向けMicroThin™の販売量について、昨年の在庫調整の反動やメモリーの作り込みもあり、実需以上になっているという理解で宜しいでしょうか。
A. 今年度のQ2, Q3販売量は在庫需要やメモリー作り込みなどの要因で実需以上になっているのは事実。また、Q4の水準は在庫調整等もあり逆に実需以下になっていると見ている。

Q. 触媒について、貴金属価格が上昇すると収益が好転するのに時間差はあるのか。また1月以降更にパラジウム・ロジウムの価格が上昇しているが、Q4見込の価格前提を教えてください。
A. 貴金属を購入し、担体に塗布して販売するまで時間がかかるのでタイムラグはある。なおQ4見込では貴金属価格をQ3と同水準と見ているため、今の貴金属価格上昇局面が続けばQ4の利益が増える可能性はある。

Q. 触媒事業の貴金属価格上昇の影響について、Q3で10億円台前半の利益押上げ効果があったという認識でよいか。また貴金属価格が下がった場合、どのタイミングでどのような影響があるのか確認させてください。また自給材の比率が分かれば教えてください。
A. 利益押上げ効果は概ねその通り。また価格が下がった場合は上昇局面の逆が起こりうると認識している。自給材の比率は3割くらい。

【金属セグメント】
Q. 日比共同製錬の持ち株形態の変更について、2020年度からは再び銅事業が営業利益から乗ってくると思うが、どの程度のインパクトになりそうなのか、また開示資料によると2019年3月期は赤字のようですが、今後の見通しについても教えてください。
A. 2019年3月期の大きな赤字は定修およびそれに伴う休転による影響。日比共同製錬の今後の見通しについて、受委託契約は今までと変わらないため、長い目で見ればノンプロフィットの会社という認識。よってPPCの利益を持分法で取り込む基本的な損益の流れは変わらないので大きなインパクトはない。ただし新たに連結子会社になるため、バランスシートへのインパクトはある。
現在詳細を詰めている段階であり、来年度の会社設立以降の業績見通し等でご説明していきたい。

以　上